平成３０年度　地域貢献事業活動報告書

１事業名称	上越子ども支援プロジェクト
２事業推進者等	責任者：助教・宮崎 球一（臨床心理学コース） 実習者：学部生・大学院生（臨床心理学コース宮崎研究室所属） 顧問：佐藤 賢治（上越教育大学上廣道徳教育アカデミー） 共同実施者：岡田 まりあ（上越市教育センター・臨床心理士）
３学外の連携機関等	連携機関：上越地域の小中学校（本プロジェクトは，学校からの支援依頼に応じて小中学校と連携し活動した）
４事業の趣旨・目的	本事業は，上越地域の小学校と中学校において，学習面をはじめとして学校生活で困難さを抱えている児童・生徒に対して，臨床心理学コースの宮崎研究室に在籍している学部生・大学院生が，応用行動分析を中心とした心理的支援を実習者として提供することを目的とする。責任者は実習者の指導および学校でのコンサルテーションを行う。 活動を行う実習者は学校臨床の仕事に携わることを希望していることから，学校で継続的に児童・生徒の支援を行うことで，心理職として働くための訓練となっている。また，支援対象の子どもはもちろん，学校側にとっては子どもの支援の選択肢を広げる機会となっている。
５事業活動報告	平成 30 年度は，上越地域の中学校２校，小学校２校の計４校から依頼を受け，上越子ども支援プロジェクトの活動を行った。実習者の活動頻度は，年間通して毎週１回程度（１回の活動は半日から１日）であった。支援を行う実習者は，基本的にクラスに入って１日子どもと一緒に活動を行った。その中で，環境調整や子どもへの声かけを中心とした支援を行い，その場面において適切な行動を促進させるはたらきかけを行った。 責任者は，依頼を受けたのちにまず学校での観察を行った。次に，それに基づいて支援の方針を学校と相談し，実習者の具体的な活動内容について検討した。また，学内では定期的に実習者の指導を行い，支援の効果が高まるようにアドバイスを行った。 さらに，学校からの依頼に応じて，責任者自身も１件コンサルテーションを中心とした支援活動を行った。
６本事業で得られた成果	本事業の成果を，学生の実習と，子どもの支援に分けてまとめる。まず学生の実習としては，心理学的な支援方法の１つである応用行動分析学を，実地で学ぶことができた。応用行動分析では行動と環境の相互作用に注目するため，特定の枠組みに基づいた観察や記録を現場で徹底して繰り返す訓練が必要であり，観察された行動と環境の関係性に関する分析に基づいて支援を行う。実習者や学校の報告から，活動した学生のスキルがこれらの訓練によって向上していることが確認された。また，子どもの支援については，行動上の問題に変化があり，その場面において適切な行動をとる頻度が増えたことが報告され，支援の効果があったと考えられる。また責任者がコンサルテーションを行った学校でも，教師の指導に応用行動分析が取り入れられたとの報告があり，支援方法を学校に伝えることができた。
７その他	本事業は 2019 年度も継続して行う予定であり，引き続き上越地域の小中学校からの依頼に応じて活動を進めていく。